基本方針の作成と実践で関与先に安心感を

東京税理士会品川支部 杉田 浩二 税理士

「関与先に安心感を与えたい――」

杉田浩二税理士は、独自に作成した個人情報保護に関する基本方針をホームページ上で公表するに至った経緯を端的にこう説明する。昨今蔓延している振り込め詐欺や架空請求などの社会問題も個人情報保護の不徹底が温床となっている向きもなくはない。ましてや「税理士業務のコンテンツは個人情報そのもの。真剣に取り組まないわけにはいかないですよね」。

■ Pマーク取得をサポート

きっかけは、昨年5月、とある関与先からの「P（プライバシー）マークを取得したいのですが……」との突然の要請だった。「言われて何のことやら、プライバシーのPの文字さえ知りませんでした」と笑う。その関与先も取引先からのたっての要請を受けてであった。が、取得するためのサポートを外部の専門業者に依頼すると数百万円はかかる。「ならば自分が…」と一念発起したという。

セミナーに何度となく足をはこび、個人情報保護法などの関係法令を時には夜を徹して熟読。申請に必要な規程などはツテを頼りにチェックしてもらいながら、基本的にはすべて杉田氏が作成した。申請書類は「厚さ3cm、1冊のファイルにようやく収まるほど」の膨大な量におよんだ。間もなく無事、取得できる見込みという。

この間、同時進行で事務所としての個人情報保護に関する基本方針の作成にも着手した。普段の業務を反芻しながら、個人情報の流れを5W1H方式で洗い出し、いかにして外部に漏らさずに守るかを模索。「具体的なイメージを想い描きながらまとめた」方針は、ひな型をベースにしたやっつけ仕事などとは無縁の、行き届いた配慮と手づくり感がただよう。トップページに専用のコーナーを設けて公表したのも、「一般の人にも見ていただきたい」からこそ。自信のほどがうかがえよう。

■ パスワード、シュレッダー、座らない！

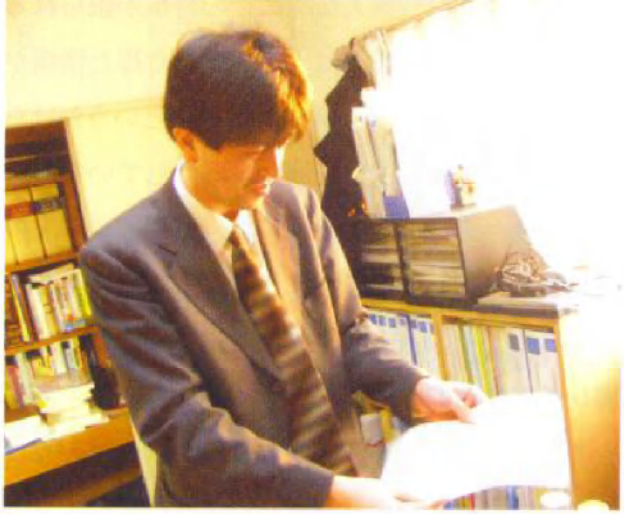
実践面もまた、誠意に満ちあふれた徹底ぶりだ。

早速、事務所のパソコンにパスワードをかけた。「自分しか出入りはないんですけれどね、まあ一応」。たとえ泥棒に入られようとも個人情報だけは盗ませない――そんな気概が伝わってくる。

個人情報が書かれた文書を処分する場合は必ずシュレッダーにかける。それでも気になるときは「紙くずもチェックしますね、念のため」。

仕事用の鞄をさげて電車に乗ったときはなるべく座らない。眠っている隙に盗難に遭わないとも限らないからだ。「どうしても眠いときは抱きかかえるようにします。恥ずかしいですけど」。

細心の注意をこれほどまでにはらうのは盗難による情報漏洩も、是正勧告ひいては処罰の対象になるためだ。法律上の処罰の対象は5,001人以上の個人情報を取り扱う事業者だが、官公庁の指針や地方団体の条例ではこの基準に達しなくても法に反した場合は勧告事実を公表することとされている。当然、営業にも支障を来たしかねない厳しい制裁だ。「その意味では全事業者が対象といえるでしょう」。



「あとは事務所にある文書類ですかね。これをスキャナー保存してサーバーに格納するようにしたいですね」と、「走りながら」の錬磨にいそしむ。

Key Word から探る税理士業務